

## OMJ活動Ⅱ - IOVとBMA、OMJ活動を支える2つの柱

OMJ (Order Management in Japan) WGの参加企業が、ロゼッタネット (RN) 標準の実装を推進していく中で最初に突き当たった問題は、次の2点である。RNIFレベル (ロゼッタネット標準対応のB2Bサーバーの相互運用性が低いこと) とPIPレベル (PIPに規定されたメッセージ項目の解釈が企業によって異なっている場合があること) に大別される。

前者は導入企業間のB2Bサーバーの接続試験の、後者は交換するメッセージの確認やバックエンドシステムとの接続に関する工数の増加につながってしまう。ロゼッタネット標準の導入を行う取引先企業が増加するに従って、これらの問題が加速度的に深刻化することが予測された。そのため、OMJ WGではロゼッタネットジャパン (RNJ) の会員企業に広く呼びかけ、こうした問題を解決するための2つのSWG (サブワーキンググループ) を設置した。

●IOV (Interoperability Validation ; 相互運用性検証) SWG

- ・Phase 1 (2001.11-02.6) : PIP 3A4 on RNIF1.1
- ・Phase 2 (2002.7-03.7) : PIP 2A10 / 3A4 on RNIF2.0

異なるベンダーのロゼッタネット標準対応B2Bサーバー製品の相互運用性を検証するサブワーキンググループで、ソリューションベンダーが中心となって活動していった。

Phase 1では、RNIF1.1で規定されていなかった日本語の使用の可否を含めて検証を行った。Phase 2では、急速に普及が予測された

RNIF2.0の実装について、OMJ WG参加企業が利用するPIP3A4に加え、日本提案で初めて開発された、新製品情報交換のためのPIPであるPIP2A10をテストパターンとして、検証を行った。

IOV SWGの活動にやや遅れる形で、ロゼッタネットでも相互運用性に関する2つのプログラム (Compliance, Interoperability) が設置され、ロゼッタネット標準の世界的な普及に向けた重要な活動の1つとなっている。

●BMA (Business Model Alignment : ビジネスモデル整合) SWG

- ・Phase 1 (2001.11-02.7)
  - PIP3A4とJEITA EDI標準メッセージとの整合性検討。
- ・Phase 2 (2003.1-03.12)

OMJ WG参加企業が実装したPIPのうち11のPIPについての検証と実装ガイドラインの作成、ロゼッタネットに対する修正要求取りまとめ。

OMJ WG参加企業およびその取引先が参加し、JEITA EDI標準や各社の実装方法をすり合わせ、実装ガイドラインを作成するとともに、日本企業のニーズに合わせたPIPの修正要求を取りまとめた。こうした活動により各企業の実装方法 (データマッピング) のばらつきを極力小さくして、バックエンドシステムとの統合を含めた全体の实装コストを削減することを目指している。

更に、IOV、BMA SWGの有志により、高負荷状態でのB2Bサーバーの信頼性、可用性向上に向けた提言も取りまとめている。

この提言の重要性は、ロゼッタネットでも直ちに認識され、03年10月、対応の為の専門のチームがアサインされ、専門チームとの共同作業による結果が技術的報告書として公開されている。又この内容は04年5月OASISシンポジウムでも発表され、高い評価を受けた。

このように、OMJ WGおよび各SWGの活動成果は、参加企業の実ビジネスを背景にした極めて実用的なもので、その成果は世界的に高く評価されている。

### OMJ活動の位置づけ

